

令和元年度事業報告及び 収支決算について

—総括版—



日本赤十字社
Japanese Red Cross Society

令和元年度事業報告

1. 新型コロナウイルス感染症対応

■ 日本赤十字社の対応

■ 各事業の通常業務への影響



2. 地域における医療提供体制の充実

- 地域医療構想への対応
- 地域包括ケアシステムに対応できる人材育成



3. 令和元年台風第19号への対応



医療救護班

95班、約570人

(日本DMAT13班含む)



赤十字ボランティア

2,810人



救援物資

毛布 17,595枚

緊急セット 2,385セット

安眠セット 2,664セット

4. バングラデシュ南部避難民支援

- 保健医療支援の継続
- 現地の医療スタッフ・地域保健ボランティアの育成



【派遣者】

12人

【診療者】

延べ2万人

【こころのケア】

延べ1万5,000人

5. 若年層への献血推進活動

- 若年層向け新規プロジェクト「みんなの献血」
- 前年度比 +20,993人



6. 地域のニーズに応じた社会活動

「赤十字多文化共生事業」

(愛知県支部)

- ・ 外国人住民に対する「やさしい日本語」テキストを活用した救急法等の講習
- ・ 講習を受講した参加者の赤十字ボランティア活動への参加



「癒しのハンドケアをプレゼント」

(山口県支部)

- ・ 青少年赤十字加盟校の小学生が、老人ホームの入居者へハンドマッサージを実施
- ・ 人とのふれあいのきっかけづくりやコミュニケーション機会の創出



7. 社会福祉施設を通じた地域貢献

- 子育て支援講座の開催
- 認知症の理解促進セミナーや福祉体験講座の開催



令和2年度以降の事業方針について

VISION
日赤150

「長期ビジョン」
令和2年度（2020年）よりスタート

創立150年に
目指す姿

日本赤十字社が重点的に取り組む社会課題

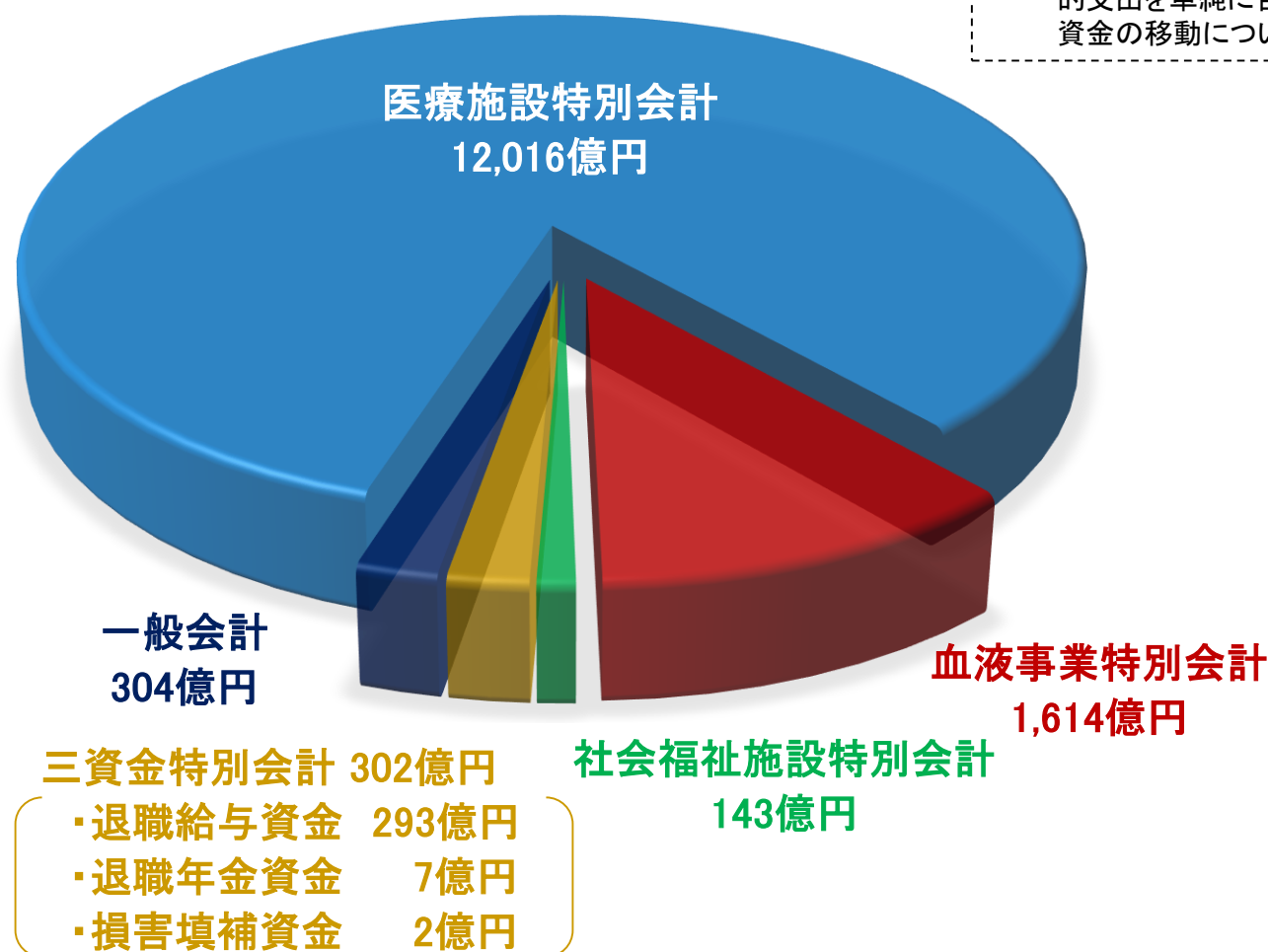
災害や紛争から人々が守られる社会づくり
人々の健康・福祉を支える地域づくり
互いを思いやり、助け合い、尊重し合う社会づくり

令和元年度収支決算

令和元年度収支決算の概要

総額1兆4,379億円
(歳出決算の合算)

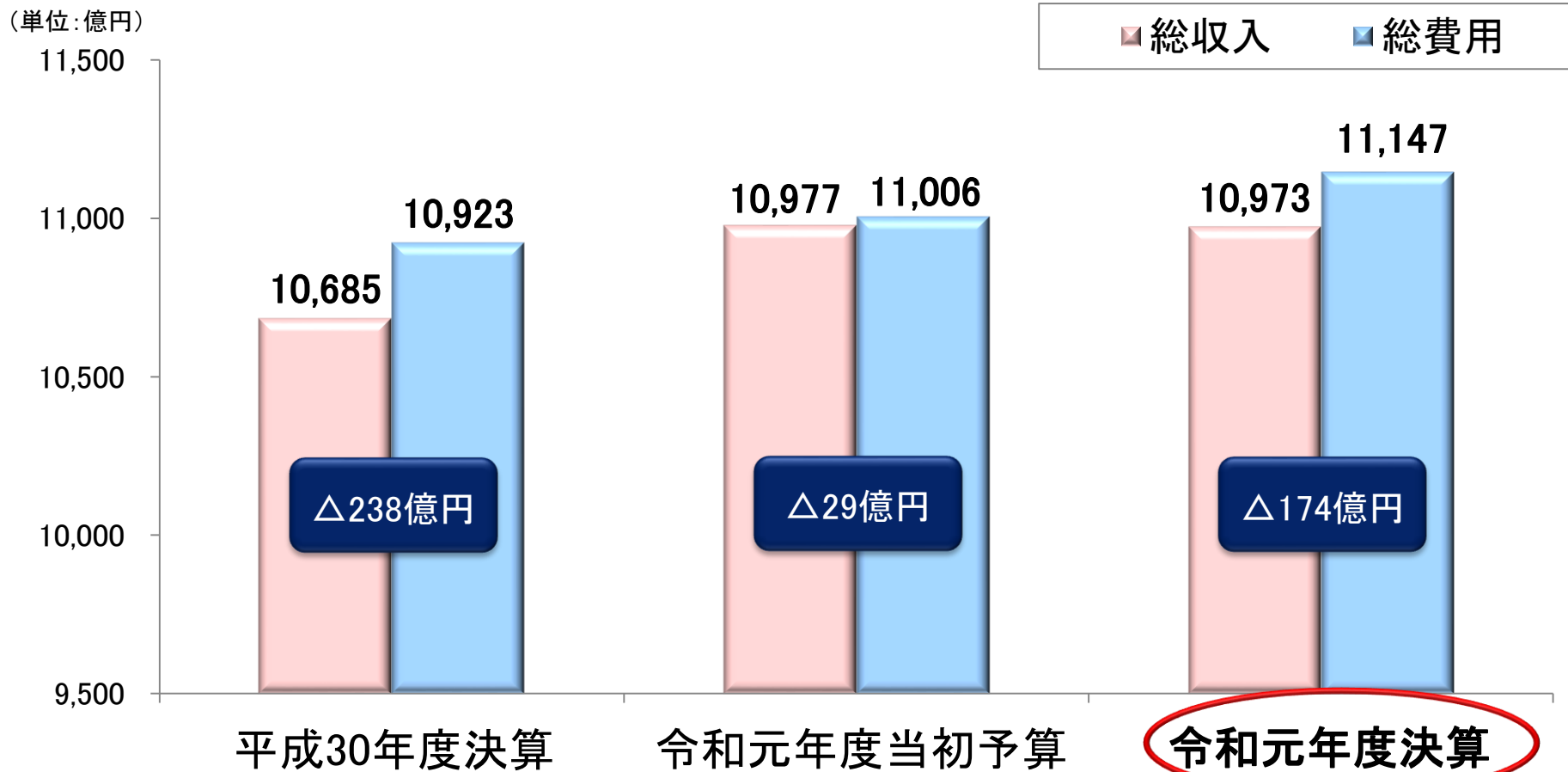
- ※1 金額に義援金及び東日本大震災にかかる海外救援金は含まれておりません。
- ※2 金額は1億円未満を切り捨てとしております。
- ※3 総額は、一般会計、社会福祉施設及び3つの資金特別会計の歳出と、医療施設及び血液事業の各特別会計における収益的支出、資本的支出を単純に合計したものであり、会計間の資金の移動については調整しておりません。



医療施設特別会計の収支決算

1. 令和元年度の収支状況

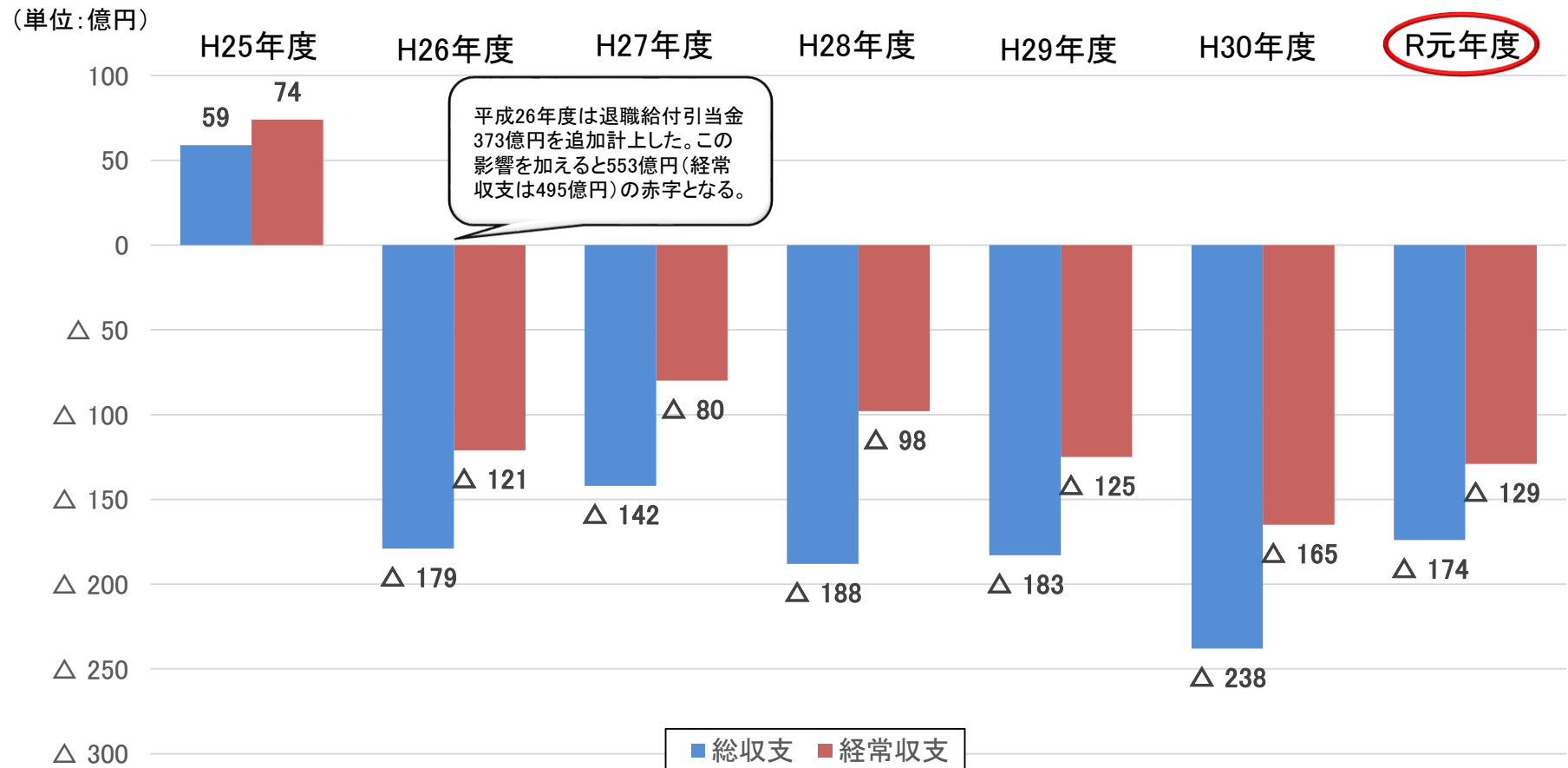
※ 金額は1億円未満を切り捨てとしているため、総収入マイナス総費用は収支差引額と一致していません。



令和元年度は昨年度に比べて64億円改善したものの、赤字を29億円まで削減する予算上の目標は達成できなかった。

2. 総収支及び経常収支の推移

※ 金額は1億円未満を切り捨てとしております。



令和元年度は経常収支の黒字化を目指して経営改善に取り組んだが、平成26年度から6期連続の赤字決算となった。

3. 令和元年度の取り組みの結果

(1) 目標管理

(単位: 千円)

	目標	実績	評価
経常収支	728,960	△12,907,714	×
(内訳) 本社勘定	△361,053	△18,801,791	×
施設勘定	1,090,013	5,894,077	○
新入院患者数	815,518人	813,545人	×
修正給与費等負荷率	81.1%	81.4%	×

2月までは達成

(2) 計画的な設備投資

	実績	評価
投資総額ポリシーの設定	第一段階として減価償却費を上限とするポリシーの考え方を整理した。令和元年度は減価償却費が692億円に対し設備投資557億円と範囲内におさめた。	△
施設の建て替えにかかる設備投資基準の策定	病院として適切な規模・機能及び投資等の考え方を明確にし、将来を見据えた設備投資計画策定の基準を策定した。(令和2年度から適用)	○

3. 令和元年度の取り組みの結果

(1) 目標管理

(単位: 千円)

	目標	実績	評価
経常収支	728,960	△12,907,714	×
(内訳) 本社勘定	△361,053	△18,801,791	×
施設勘定	1,090,013	5,894,077	○
新入院患者数	815,518人	813,545人	×
修正給与費等負荷率	81.1%	81.4%	×

2月までは達成

(2) 計画的な設備投資

	実績	評価
投資総額ポリシーの設定	第一段階として減価償却費を上限とするポリシーの考え方を整理した。令和元年度は減価償却費が692億円に対し設備投資557億円と範囲内におさめた。	△
施設の建て替えにかかる設備投資基準の策定	病院として適切な規模・機能及び投資等の考え方を明確にし、将来を見据えた設備投資計画策定の基準を策定した。(令和2年度から適用)	○

4. 当初予算より赤字が大きくなった特殊要因

新入院患者数や修正給与費等負荷率が目標数値に及ばなかったことに加え、次の特殊要因が重なり、赤字を29億円まで削減する予算上の目標が達成できなかった。

【収益面】

新型コロナウイルス感染症による減収 (入院・外来患者数の減少)	約39億円
------------------------------------	-------

【費用面】

年金資産の時価の下落に伴う退職給付費用の増加	約160億円
------------------------	--------



174億円の赤字

5. 令和2年度の対応

新型コロナウイルス感染症の影響下では、地域医療の維持が喫緊の課題であり、本来の目標管理は困難であることから、令和2年度は目標管理を中断し、必要な医療の提供に専念する。

ただし、令和3年4月の再スタートに向けて、各施設の規模、機能に応じた新たな目標の設定方法を検討するなど、必要な準備を進める。

【参考】 新型コロナウイルス感染症による支部社資収入への影響

- 支部の社資収入(令和元年度決算額)は 172億円。
そのうち、地区分区扱いの社資は 103億円(60%)
- 例年、赤十字運動月間等の5～6月頃に、地区・分区(町会・自治会等)が社資募集を実施しているが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地区・分区の戸別訪問を延期又は中止している地域もある。
- 地区・分区募集分の社資は、7月以降に支部事務局に入金されるため、現時点では社資への影響は判断が難しいが、大変厳しい状況が予想される。
- そのため、ホームページからのクレジットカード決済やダイレクトメールの活用により、支部から寄付者へ直接アプローチする方法にも努めている。

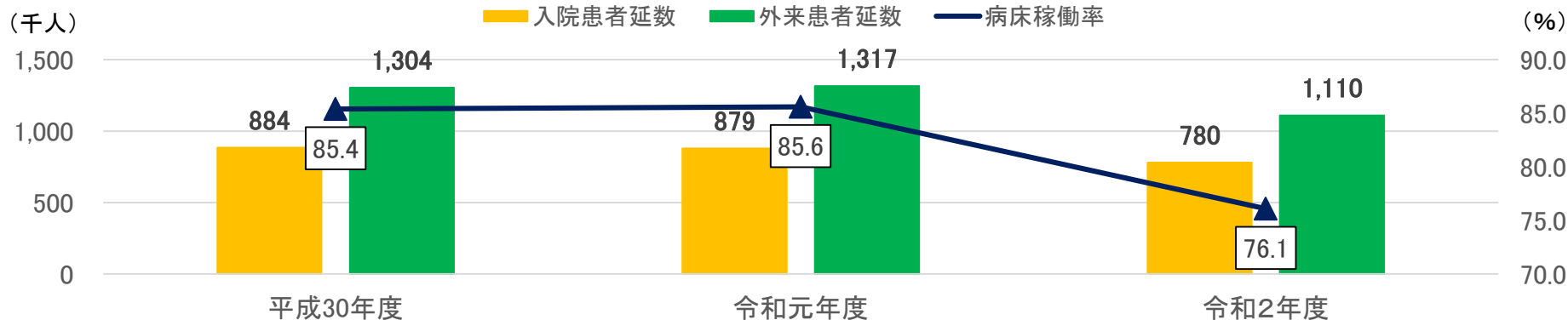
【参考】 新型コロナウイルス感染症による支部社資収入への影響

- 支部の社資収入(令和元年度決算額)は 172億円。
そのうち、地区分区扱いの社資は 103億円(60%)
- 例年、赤十字運動月間等の5～6月頃に、地区・分区(町会・自治会等)が社資募集を実施しているが、今年は新型コロナウイルス感染拡大の影響により、地区・分区の戸別訪問を延期又は中止している地域もある。
- 地区・分区募集分の社資は、7月以降に支部事務局に入金されるため、現時点では社資への影響は判断が難しいが、大変厳しい状況が予想される。
- そのため、ホームページからのクレジットカード決済やダイレクトメールの活用により、支部から寄付者へ直接アプローチする方法にも努めている。

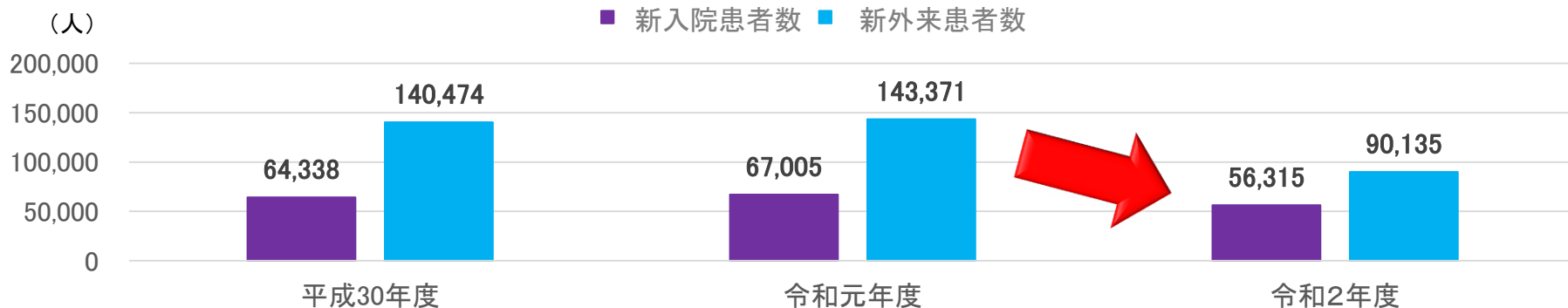
【参考】新型コロナウイルス感染症による赤十字病院への影響

(1) 診療実績

○各年度4月 入院患者延数・外来患者延数及び病床稼働率



○各年度4月 新入院患者数・新外来患者数

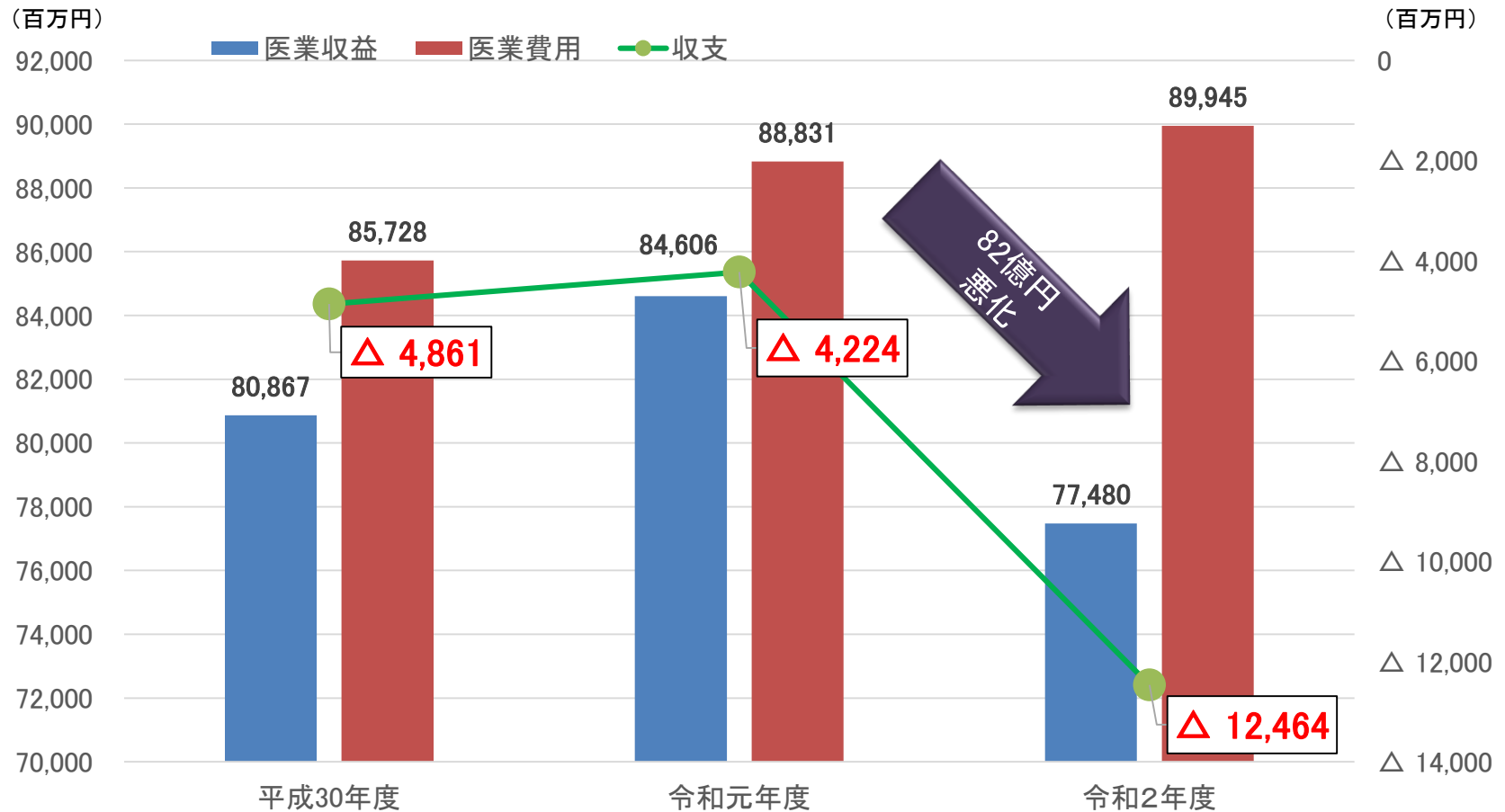


【患者数減少の原因】

- ・開業医の診療機能停止による紹介患者の減少
- ・患者自身による受診の控え
- ・マンパワー不足による救急患者受入の制限
- ・緊急を要さない予定手術の延期など

(2) 収支状況

○各年度4月 収支状況



今年度中は厳しい状況が継続するものと想定して、地域医療の維持に全力を挙げる。